

大阪インターナショナルチャーチ  
ブラッドフォード・ハウディシエル  
説教題：「この人の子は誰ですか？」

2023年1月1日

鍵となる聖句:ヨハネ12:34 – そこで、群衆はイエスに答えた。「私たちは、律法で、キリストはいつまでも生きておられると聞きましたが、どうしてあなたは、人の子は上げられなければならない、と言われるのですか。その人の子とはだれですか。」

お早うございます。新年おめでとうございます。今日、ここで皆様とお会い出来て嬉しいです。先週はクリスマスでしたが、一週間前のメッセージで、賢者たちがした質問をしました。「ユダヤ人の王として生まれた方はどこにおられるのですか」と。この「ユダヤ人の王」という言葉は、ユダヤの人々がもうすぐ現れると期待していた約束のメシアに対して使われる称号でした。今日は、別の質問と、イエスに対する別の称号があります。先週と同じように、この質問は新約聖書の中から出てきたもので、私のメッセージのタイトルにもなっています。ヨハネの福音書12章34節で、人々はイエスに、「この『人の子』とは誰ですか？」と尋ねています。これは、イエスがご自分を指すのに時々使われた言葉です。「メシア」でも「神の子」でもなく、「人の子」と呼ばれたのです。今回は、この言葉が聖書の中でどのように使われ、そこからイエスについて何を学ぶことができるかを見ていきたいと思えます。私がオンラインで神学校を受講していることは多くの人が知っていると思いますが、昨年11月の授業の中で、この言葉を取り上げました。驚いたことに、同じく11月、私の好きなクリスチャンのラジオ番組でも、この「人の子」という言葉についてかなり詳しく取り上げていました。今日は、私が学んだことのいくつかを紹介したいと思います。

「人の子」という言葉は、イエスがご自分を指す言葉として最も多く使われた言葉です。このことを示すために、いくつかの節を、その都度イエスの言葉を引用して紹介します。

マタイ 8:20 – 「すると、イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所ありません。」

マタイ 11:19 – 「人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『あれ見よ。食いしんぼうの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ。』と言います。でも、知恵の正しいことは、その行ないが証明します。」

マタイ 12:8 – 「人の子は安息日の主です。」

マタイ 13:37 – 「イエスは答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は人の子です。...」」

ルカ 5:24 – 「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに悟らせるために。」と言って、中風の人に、「あなたに命じる。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」と言われた。」

ルカ 19:10 – 「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」

ヨハネ 3:14-15 – 「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。<sup>15</sup>それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

「人の子は引き上げられなければならない」：この言葉は何を意味するのでしょうか。これは、私たちの救いのために必要な十字架につけられることを指しています。もう一箇所読んでみよう。

ヨハネ 12:32-34 – 「わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます。」<sup>33</sup>イエスは自分がどのような死に方で死ぬかを示して、このことを言われたのである。<sup>34</sup>そこで、群衆はイエスに答えた。「私たちは、律法で、キリストはいつまでも生きておられると聞きましたが、どうしてあなたは、人の子は上げられなければならない、と言われるのですか。その人の子とはだれですか。」

この最後の文章が、今日の私のメッセージのタイトルです。このように、イエスはご自分のことを頻繁に「人の子」と呼んでいます。この言葉の意味は何でしょうか？メシアの称号なのでしょうか？メシアに対してのみ使われるのでしょうか？

ヨハネの福音書 12 章 34 節にある人々の二つの質問をもう一度見てください。民衆は少し困惑しています。彼らは、約束のメシア、キリストが永遠に彼らの王としてとどまることを期待しています。しかし、キリストは上げられる、つまり苦しみと死に直面すると言いました。人の子は上げられなければならない』と、どうしておっしゃるのですか。この人の子は誰なのですか？新約聖書では、イエスが十字架にかけられ、死人の中から見事によみがえられ、再臨を約束して天に昇られたことが描かれています。

実は、この「人の子」という言葉は、期待されるメシアが呼ばれる称号の一つでした。この時代の多くのユダヤ人はそう信じていました。実際、イエスが逮捕され、ユダヤの議会であるサンヘドリンに引き出されたとき、大祭司から尋問を受けたのです。その時の様子を読んでみましょう。

マルコ 14:61-64 – 「しかし、イエスは黙ったままで、何もお答えにならなかった。大祭司は、さらにイエスに尋ねて言った。「あなたは、ほむべき方の子、キリストですか。」<sup>62</sup>そこでイエスは言われた。「わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずです。」<sup>63</sup>すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「これでもまだ、証人が必要でしょうか。<sup>64</sup>あなたがたは、神をけがすこのことばを聞いたのです。どう考えますか。」すると、彼らは全員で、イエスには死刑に当たる罪があると決めた。」

イエスの答えが示すものについて、大祭司の心には何の疑いもありませんでした。イエスは、そうです、彼はキリスト、祝福された者の子ですと言われました。このほむべき方の子（祝福された者）という言葉は、神を指す一般的な言い方でした。イエスはご自分が神の子であると言われたのです。さらに、これらの人々はいつか「人の子が、力ある方の右の座に

着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずです。」と言います。この「天の雲とともに来る」という言葉を覚えておいてください。今日のメッセージの後半で、そのイメージに戻ります。

大祭司と最高法院（長老たち）は、イエスの言葉を、彼が自分自身を神と同一視しているとして解釈したのです。実際、ルカはこの場面をどのように描写しているか見てみましょう。

ルカ 22:67-71 – 「こう言った。「あなたがキリストなら、そうだと言いなさい。」しかしイエスは言われた。「わたしが言っても、あなたがたは決して信じないでしょうし、<sup>68</sup>わたしが尋ねても、あなたがたは決して答えないでしょう。<sup>69</sup>しかし今から後、人の子は、神の大能の右の座に着きます。」<sup>70</sup>彼らはみなで言った。「ではあなたは神の子ですか。」すると、イエスは彼らに「あなたがたの言うとおりに、わたしはそれです。」と言われた<sup>71</sup>すると彼らは「これでもまだ証人が必要でしょうか。私たち自身が彼の口から直接それを聞いたのだから。」と言った。」

イエスが自分についてこのような表現をしたのは、神の子であると主張しているのだと解釈するのが正しいでしょう。イエスは神であると主張されたのです。イエスが神であると主張していないと言う人がいますが、このような箇所から、イエスが実際にそう主張していたことがわかります。もう一つの箇所を見ましょう。

ヨハネ 8:30-33 – 「イエスがこれらのことを話しておられると、多くの者がイエスを信じた。<sup>31</sup>そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。<sup>32</sup>そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」<sup>33</sup>彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、決してだれの奴隷になったこともありません。あなたは どうして、『あなたがたは自由になる。』と言われるのですか。」

今日のメッセージでこれまでお話ししたことは、「人の子」という言葉はイエス・キリストが好んで使った言葉であり、当時のユダヤ人社会では、この言葉がメシアンの称号として認識されていた、ということです。

次に、問いたいことがあります。聖書において、この「人の子」という言葉は、常にメシア的な称号なのでしょうか。答えはこうです、「いいえ」。

今日の学びで少し戻って、この言葉が旧約聖書でどのように使われているかを見てみましょう。実は、この言葉が使われるほとんどの場合、単に人間を意味しているのです。いくつかの例を見てみましょう。

詩編 8:4、これが神について言われているのを見ます。 – 「人とは、何者なのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。人の子とは、何者なのでしょう。あなたがこれを顧みられるとは。」

ヨブ 25:6 で、ヨブの友人の一人が強い口調で言います - 「ましてうじである人間、虫けらの人の子はなおさらである。」

この二つの節では、「人」と「人の子」の両方が並列の枠組みの中に置かれ、この二つの用語が基本的に同じことを意味していることを示す、並列法の例が見られます。

人の子」という言葉は旧約聖書の中で約 120 回使われていますが、ほとんどの場合、人間を指しているに過ぎません。エゼキエル書では 90 回以上、この言葉が使われており、預言者エゼキエル自身を指して、「人の子」と呼ばれている。

エゼキエル 2:1 で、預言者はこう記しています。 - 「その方（神）は私に仰せられた。「人の子よ。立ち上がれ。わたしがあなたに語るから。」  
そしてエゼキエル 3:4 - 「その方はまた、私に仰せられた。「人の子よ。さあ、イスラエルの家に行き、わたしのことばのとおりに彼らに語れ。」

この「人の子」という言葉が使われるとき、何が語られているのでしょうか。旧約聖書の他の箇所でも、神がエゼキエルに向けてこの言葉が使われたとき、一般的には、聖なる無限の神と単なる人間との区別を強調するために使われています。私たち人間は被造物であり、神は創造主である。私たち人間は死すべき存在であり、神は永遠です。

イエス・キリストがこの言葉をご自分のために使われるとき、その言葉の使われ方の一端は、私たち人間と私たちの状態を同一視したいと願われていることです。ですから、三位一体の第二の位格は神の立場を離れて地上に来られ、先週キリストの誕生を祝った「受肉」と呼ばれる出来事で人間の肉体を身に着けられました。キリストは私たち人間の肉を贖うために、つまり、私たちの罪のために十字架上で犠牲となり死からよみがえることによって死を打ち負かすために人間の肉を身につけられました。このようにして、キリストは死を打ち破り、彼とともに生きる永遠の命を私たちに与えてくださったのです。

キリストが「人の子」という言葉を使ったのは、私たち人間と同一視するためという側面もあります。しかし、もう一つの側面があります - 非常に重要な側面です。それはダニエル書 7 章にある注目すべき一節です。

この書物をご存知の方は多いと思いますが、預言者ダニエルはその生涯において、いくつもの幻を見せられます。7 章では、4 匹の獣の幻を見ますが、その獣はそれぞれ大帝を表しているようです。聖書学者たちは、これらの獣を、バビロン、メディア・ペルシャ、アレキサンダー大王下のギリシャの帝国、そして 4 番目の最も恐ろしい獣をローマと解釈しています。この最後の獣には 10 本の角があり、さらに 1 本の小さな角が立っています。この小さな角は反キリストを表していると解釈されています。次に、ダニエルは天国の光景を描いていますが、その箇所を読みたいと思います。

ダニエル 7:9-14 - 「私が見ていると、幾つかの御座が備えられ、**年を経た方**が座に着かれた。その衣は雪のように白く、頭の毛は混じりけのない羊の毛のようであつ

た。御座は火の炎、その車輪は燃える火で、

<sup>10</sup>の流れがこの方の前から流れ出ていた。幾千のものがこの方に仕え、幾万のものがその前に立っていた。さばく方が座に着き、幾つかの文書が開かれた。

<sup>11</sup>私は、あの角が語る大きなことばの音がするので、見ていると、そのとき、その獣は殺され、からだはそこなわれて、燃える火に投げ込まれるのを見た。

<sup>12</sup>残りの獣は、主権を奪われたが、いのちはその時と季節まで延ばされた。

<sup>13</sup>私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、**人の子のような方**が天の雲に乗って来られ、**年を経た方**のもとに進み、その前に導かれた。

<sup>14</sup>この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」

ヨハネの黙示録をよくご存知の方なら、同じような言葉をここで目にすることができるでしょう。多くの聖書学者は、黙示録の出来事は、私たちがダニエル書で読んだことの最終的な成就を描写しているのかもしれない、と言っています。ここで紹介されている二人の人物に焦点を当てたいと思います。

第一は、「年を経た方」と呼ばれる人です。この箇所について、ESV スタディバイブルの注釈から引用してみましょう。

その衣は雪のように白く、妥協のない輝くような純粋さを表し、その髪は純毛のように白く、偉大な年齢から来る知恵を象徴しています。戦車は炎に包まれ、車輪は燃え上がり、敵を破壊する神の戦士の恐るべき力を象徴しています。その前には火の手が上がり、その周りには天使の従者が何人もいる。この場面では、善悪を見分ける知恵と、正しいものを選び続ける純粋さ、そして判決を執行する力を持った裁判官の姿が力強いイメージで描かれています。

(抜粋：Crossway. "ESV® Study Bible." Apple Books.)

「年を経た方」とは、神ご自身です。

そして、もう一人 - 13節で「人の子のような方」と呼ばれている。そして、その節には、「**年を経た方**のもとに進み その前に導かれた。」とあります。彼は年を経た方、神の前に導かれました。14節には、「主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」とあります。この方が「永遠の支配権」を与えられていることは非常に印象的です。これは単なる人間でもなければ、天使でもありません。この方は「人の子のような者」と呼ばれていますが、何となく人間のように見えますが、人間以上の存在なのです。

古代ユダヤ人の解説者たちは、この聖句について熟考しました。この箇所は「天の二つの力」と呼ばれるものを描写しているという考え方が広まっていました。解説者たちは、この二人目が誰なのかよくわかりませんでした。多くの人が、これは期待されるメシアの描写

ではないかと考えました。しかし、それはどんな人物なのでしょう。この疑問に対して、さまざまな説が飛び交いました。ユダヤ人の注解者の中には、このダニエル7章の「人の子のような方」は、おそらく神格化された人間、つまり、生きて死んで天で栄光を受けた後、地上に戻って王国を樹立する人間ではないかと考えた人がいました。もう一つの説は、これは神によって創造された神的存在で、何らかの形で人間になるというものでした。— 恐らく人格化された天使。そして第三の説は、この天の第二の権力者は、実は神と同じ本質を持つ永遠に存在する神的存在であるというものである。これらの説は、イエスが登場する前の数年間に議論されていました。そして、この第三の説こそが、「人の子」がどのような存在であるかを正しく示していることが、現在では分かっています。

次に、ダニエル書の別の部分に数分間を費やしたいと思います。二週間前、ブルース牧師はダニエル書9章から、来るべきメシアについていくつかの節を引用しましたが、今日はその節をもう一度読みたいと思います。その章では、天使ガブリエルが幻の中でダニエルに現れ、驚くべき預言を告げます。ダニエル9:24を読んでみましょう。そこでガブリエルはこのように言っています。あなたの民と聖なる都のために七十の"七"が定められ、罪を終わらせ、悪を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言を封じ、至聖所に油を注ぐのです」。この節は、「七つの」と呼ばれる70の期間についての言及から始まっています。1週間は7日間、それで「七つの」言葉は「週の」をに言及し、それで多くの聖書翻訳では、これを「70の「週」」と呼んでいます。この「七つ」または「週」のそれぞれは、実際には7日間ではなく、7年間の長さです。この「七十週」の数は、ユダヤ人がバビロンでの捕囚から解放され、エルサレムへの帰還が許されることから始まります。

ダニエル9:25を読みましょう。— 「それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。」

先ほど、この「七つの」は「週」と呼ぶことができ、実際には7年ずつの期間であることを述べました。ですから、この聖句では、7つの「週」は49年です。それは、ユダヤ人がエルサレムに戻ることを許された後、エルサレムを再建するのにかかった期間です。ネヘミヤ記やエズラ記を読むと、25節に書かれているように、彼らは大変な苦勞をしながらも、その仕事を完成させたことが分かります。その7つの「週」の後に62の「週」が来て、25節には、「油そそがれた者、君主が来る」とあります。それが、期待されるメシアです。ところで、ヘブル語の「メシア」とギリシャ語の「キリスト」の意味は「油注がれた者」の意味です。

2週間前、ブルース牧師がこの節を読んだ時、リビングバイブルという翻訳で読んだのですが、リビングバイブルはこの年数を計算してくれていることに気づきました。- 7週と62週。もう一度、リビングバイブルの25節を読んでみましょう。「よく聞いてください。エルサレム再建の命令が下されてから、油注がれた方が来られるまで、四十九年プラス四百三十四年である。エルサレムの道と城壁は、危険な時代にもかかわらず、再建される。」

エルサレムの再建には 49 年かかり、その後、油注がれた者、メシアが来るまで 434 年かかる。さて、これで紀元 1 世紀まで来たことになる。」

当時は、メシアが現れるのではという期待がかなりあった。福音書の記録には、そのような期待の表れがいくつか見られます。例えば、ヨハネによる福音書 1 章では、洗礼者ヨハネが「自分はメシアか」と問われ、「違う」と答えている。彼はそうではないと答え、その後 29 節でイエスを「世の罪を取り除く神の子羊」と指し示しています。その後 41 節で、アンデレは兄弟ペテロを探しに行き、「私たちはメシアを見つけた」と宣言しています。

そこで、ダニエル書 7 章に戻り、天と「年を経た方」のビジョン、そして「人の子のような者」と言及されている玉座の第二の人物について見てみましょう。その天の第二の権力者は誰でしょうか。答え：それは三位一体の第二の人であり、ピリピ人への手紙第 2 章に、神の特権を捨てて人間の肉を取り、私たちのために死なれた方として描かれている方なのです。ダニエル書 7 章と黙示録にあるように、この方が最後にすべての敵を打ち破り、ご自分の王国を持たれるのです。

ダニエル 7:13-14 をもう一度読みましょう。－ 私がまた、夜の幻を見てみると、見よ、

**人の子のような方**が天の雲に乗って来られ、**年を経た方**のもとに進み、その前に導かれた。<sup>14</sup> この方に、主権と栄光と国が与えられ、諸民、諸国、諸言語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。終わりの日にあなたの民に起こることを悟らせるために来たのだ。なお、その日についての幻があるのだが。」

そうすれば、すべての民族、国民、あらゆる言葉の人々が、主に仕えることができます。彼の支配は、過ぎ去ることのない永遠の支配です。そして、その王国は滅びることのないものです。

この「人の子」は「天の雲と共に」来ると言われています。もう一つ、ESV スタディバイブルから、こちらの 13 節についてコメントしたものを引用します。

人の子のような者」は、人間と神の両方の特徴を一人の人間の中に兼ね備えています。他の箇所でも、この「人の子」という表現は、しばしば単なる人間を神から区別します（例えば、詩篇 8:4、エゼキエル 2:1）。しかし、この人の子は単なる人間よりも偉大であり、「雲に乗って来る」ことは神の権威の明確な象徴だからです（詩篇 104:3; イザヤ 19:1 参照）。

(抜粋：Crossway. "ESV® Study Bible." Apple Books.)

今日のメッセージの前半で、詩篇 8:4 とエゼキエル 2:1 を引用しました。次に、詩篇 104 篇とイザヤ書 19 章を見てみましょう。神について、詩篇 104 篇 3 節には、このように書かれています。「水の中にご自分の高殿の梁を置き、雲をご自分の車とし、風の翼に乗って歩かれます。」

イザヤ 19:1 – エジプトに対する宣告。見よ。主（ヤハウェ）は速い雲に乗ってエジプトに来る。エジプトの偽りの神々はその前にわななき、エジプト人の心も真底からしなえる。

ヤハウェは雲を御自分の戦車とされます。速い雲に乗られます。これらは最高の神であるヤハウェの特徴です。しかし、ダニエル 7:13 では、「人の子のような方」がこの特徴を持っています。彼は「天の雲を伴って」来られるのです。古代ユダヤ人はこの言葉に気づき、ともにヤハウェと思われる二人の人物がいることに気づいたのです。

そして、イエスは御自身を「人の子」と呼ばれました。先ほど、イエスがサンヘドリンに尋問されたマルコ 14:61-62 を引用しました。もう一度見てみましょう - 「しかし、イエスは黙ったままで、何もお答えにならなかった。大祭司は、さらにイエスに尋ねて言った。「あなたは、ほむべき方の子、キリストですか。」しかし、イエスは黙って、何もお答えにならなかった。大祭司は再び彼に尋ねて言った。<sup>62</sup>そこでイエスは言われた。「わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずです。」

逮捕される前の数日間、イエスはオリーブ山で、ご自分の再臨を知らせる将来の出来事について、いくつかの説明をされました。オリーブ山で行われたので、私たちはそこでの話を「オリーブ山の説教」と呼んでいます。その説教の中で、こんなことをおっしゃっています。

マタイ 24:29-31 - 「だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。<sup>30</sup>そのとき、人の子のしるしが天に現われます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。<sup>31</sup>人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます

今の時代の終わりについて、詳しくは黙示録に書かれています。黙示録 1:6-7 を見てみましょう。 - また、私たちが王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。キリストに栄光と力が、とこしえにあるように。アーメン。<sup>7</sup>見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。

これが私たちの運命です。キリストの王国でキリストとともに君臨するのです。しかし、キリストが戻られるとき、地上の部族は嘆くでしょう。黙示録が展開するにつれ、地上の悪人たち、反キリスト、悪魔に対する裁きが見えてきます。キリストは平和と正義の王国を築くために戻ってこられ、私たちは新しい天と新しい地を見るのです。



最後に、コリント人への手紙第一の一節を紹介したいです。1コリント 15:51-58 – 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみなが眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。<sup>52</sup> 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。<sup>53</sup> 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです。<sup>54</sup> しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」とされる、みことばが実現します。<sup>55</sup> 「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」<sup>56</sup> 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。<sup>57</sup> しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。<sup>58</sup> しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。

私たちは、主イエス・キリストによって勝利を得ています。主は死に打ち勝ち、私たちに新しい体を与えてくださいます。それはもはや滅びるもの、死ぬべきものではなく、不滅のもの、不朽のものなのです。これが私たちの希望です。そして、このことは、私たちがキリストの弟子として生きていくための自信を与えてくれるのです。どんな状況にあっても、主が私たちに与えてくださった仕事、すなわち、失われた人々に手を差し伸べ、あらゆる国の人々を弟子とする仕事に常に秀で、堅固であること、この最後の励ましを忘れないようにしようではありませんか。